

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	商工部工業振興課		■担当係	雇用対策係
■評価事業名称	職業訓練法人北上情報処理学園運営費補助金			
■事業開始年度	平成2年度			
■評価事業コード	060100 - 315	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり		
	■基本施策	04 地域産業を担う人づくりと雇用環境の向上		
	■施策	02 ものづくり人材の育成		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	IT技術者の養成により、市内企業の業務の高度化と雇用の安定を図る。情報処理学園に対し、事務職員人件費を補助			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成28年度事業計画	平成28年度事業量実績
01	職業訓練法人北上情報処理学園運営費補助金	情報処理学園	学生数136人(定員200人)	学生数135人(1年生68人、2年生67人) 2科4コース体制の訓練実施

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
直接事業費	11,001	11,004	11,000	11,000	
人件費	305	403	74	150	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	11,306	11,407	11,074	11,150	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	指標の説明
01	入校者数	84	63	73	67	入学者数(1学年あたり定員100人)(根拠:職業訓練法人北上情報処理学園通常総会議案書)
02	就職内定率	0.972	0.986	0.961	0.968	総会資料□就職者/就職対象者H25:70人/72人、H26:71人/72人、H27:49人/51人、H28:61人/63人(各3月末現在)

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

03	在校生数	163	140	125	135	各年度末在籍者数(2学年合計・職業訓練法人北上情報処理学園資料より)
04	学生1人当たりコスト	69.3	81.5	88.6	82.6	在校生数/フルコスト

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

IT技術者養成のための必要不可欠な施設である。就職内定率も高く、地域経済の担い手育成に大きな役割を果たしている。学生の確保に努めながら現状を維持している。

問題点・課題等

安定的な学校運営のためには確実な学生確保が必要だが、近年は雇用情勢が好調なため、確保に苦慮している。また、学校運営に対する県の関与が限定的である。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

平成30年度に機器更新を予定していることから、最新設備による充実したカリキュラムを広くPRし学生の確保を図っていく。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了